



POINT 1

5類感染症移行後の変更点

POINT 2

軽症～中等症の患者
に対する薬物療法の考え方

POINT 3

入院患者への対応、
外来での診療体制の変化



新型コロナウイルス

結局なにが変わった？
5類移行後のコロナ診療



19:15

新型コロナウイルス感染症の予防
〜5類移行後の医療機関についての対応〜

新型コロナウイルスが感染症法5類に移行したことで、診療現場での対応が大きく変わりました。医療機関で受入が増える軽症から中等症の患者に対する薬物療法は、オミクロン流行以降は抗ウイルス薬が基本となりますが、薬剤選択の際は併用薬や腎機能障害、妊娠の有無などを考慮する必要があります。医療機関や高齢者施設では、クラスター発生のリスクは変わらず高く、加えて高齢者は未感染者が多いことを鑑みると引き続き各機関の判断に基づき感染対策が求められます。一方で、医療従事者の感染あるいは濃厚接触への対応も課題となっており、院内クラスターの防止や休業期間の確保、抗ウイルス薬の適切な使用などが求められます。これらの対応を通じて、新たな流行拡大に備えるとともに、診療現場の安全確保と患者への最善のケアを目指すことが重要となります。



川崎医科大学 臨床感染症学教室 主任教授

大石 智洋 先生

- 専門分野
小児感染症、院内感染対策
- 所属学会等
日本感染症学会 評議員、日本小児科学会、日本小児感染症学会 理事、日本環境感染症学会 評議員、日本マイコプラズマ学会 理事、日本化学療法学会 評議員 他多数

POINT 1

腰部脊柱管狭窄症の
有病率

POINT 2

腰部脊柱管狭窄症の
保存療法

POINT 3

MiroTAS試験の概要



疼痛

MiroTASから考える
タリージェエの有用性



7:17

医師会員限定動画

腰部脊柱管狭窄症は運動器変性疾患の一つであり、高齢になるほど有病率が高くなります。臨床症状として殿部から下肢の疼痛やしびれなどが生じ、典型的には間欠跛行を呈します。保存治療の一つとして、薬物療法があります。腰部脊柱管狭窄症でみられる疼痛は侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛が様々な割合で混在しているため、痛みのメカニズムを十分判別した上での薬剤選択が重要となります。本動画では、神経根型腰部脊柱管狭窄症による末梢性神経障害性疼痛を有するMiroTAS服用中の患者さんを対象としたMiroTAS試験について解説し、タリージェエの有用性を考えたいと思います。



福島県立医科大学医学部
整形外科科学講座 准教授

二階堂 琢也 先生